

平和への誓い

わたしたちは、信じるできませんでした。

69年前の8月6日、この広島に原子爆弾が落とされ、多くの尊い命が奪われたことを。5歳だった祖父は、「地獄のような光景が今も目に焼きついている。」と語ってくれました。

広島に育つわたしたちは、広島の被害、悲しみ、そして、強さを学びました。

爆風により、多くの建物がくずれました。

家や家族を失い、ふつうの生活がなくなりました。

その中で、

水道は1日も止まることなく、市内電車は、3日後には再び走りはじめました。

広島は人々の努力によって、町も心も復興したのです。

悲しみや苦しみの中で、生きることへの希望を見つけ、生き抜いた人々に感謝します。

当たり前であることが、平和なのだ気がつきました。

ある語り部の方は言いました。

「小さなことから始めてほしい。」

わたしたちは、もう行動をはじめています。

友達を大切にし、優しく接しています。

家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。

平和の思いを込めて、毎年千羽鶴を折り、慰霊碑に捧げています。

平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。

平和について考えることで、仲間とつながりました。

わたしたちは、できることから始める勇気をもつことができました。

Welcome to Hiroshima.

みなさんをここ広島で待っています。

平和について、これからについて

共に語り合い、話し合いましょう。

たくさんの違う考えが平和への大きな力となることを信じて。

平成26年（2014年）8月6日

こども代表 広島市立牛田小学校 6年 田村 怜子

広島市立尾長小学校 6年 牟田 悠一郎